

はりまや橋を渡る

「♪～南国土佐を後にして 都に出てから 幾歳（いくとせ）ぞ お思い出します 故郷の友が 門出に歌った よさこい節を 土佐の高知の 播磨屋橋で 坊さんかんざし 買うをみた～♪」これは 1959（昭和34）年にペギー葉山が歌った「南国土佐を後にして」の歌詞である。日本国民であれば知らない人はいないほどの空前の大ヒットを記録した。

今回チャンスがあって高知を訪問したのは2回目であった。1回目は確か20年近く前であったと記憶する。高知市内を車で走っている時に運転手が「はりまや橋が見えます」と。別に川を渡ったわけでもないのに、はりまや橋と言われても全く気付かずに通り過ぎてしまった。今回は歩いて「はりまや橋」を見ることにした。「え～！これがそうなの？」それは何とも小さな庭園橋のようであった。全国的に名を馳せた橋だけに、私の期待するイメージとは全く違っていたのである。

はりまや橋の名称の由来は江戸時代である。高知の豪商・播磨屋と櫃屋（ひつや）は、互いの本店が堀で隔てられており、両者の往来の為に架けられた私設の橋の名前であった。

高知県名誉県人であるペギー葉山は歌手生活60周年を迎えた2012（平成24）年には、はりまや橋公園に「南国土佐を後にして」の歌碑が設置されている。この碑は午前8時半より午後8時半までの1時間おきにペギー葉山の歌声が流れている。

撮影 2014 年春

